

1. Report No. UMTRI-2013-20		2. Government Accession No.		3. Recipient's Catalog No.	
4. Title and Subtitle 米国の車社会はピークに達したのか? Part 2: 軽車両の使用に関して				5. Report Date July 2013	
				6. Performing Organization Code 383818	
7. Author(s) Michael Sivak				8. Performing Organization Report No. UMTRI-2013-20	
9. Performing Organization Name and Address The University of Michigan Transportation Research Institute 2901 Baxter Road Ann Arbor, Michigan 48109-2150 U.S.A.				10. Work Unit no. (TRAIS)	
				11. Contract or Grant No.	
12. Sponsoring Agency Name and Address The University of Michigan Sustainable Worldwide Transportation http://www.umich.edu/~umtriswt				13. Type of Report and Period Covered	
				14. Sponsoring Agency Code	
15. Supplementary Notes					
16. Abstract <p>本研究の主な内容は、軽車両(乗用車、ピックアップトラック、SUV、小型トラック)の移動距離に関する最近の傾向の調査である。この研究は、全ての車両(中型・大型トラック、バス、バイクを含む)の移動距離に関して分析した他のいくつかの最近の研究とは異なっている。調査した期間は1984年から2011年までである。この研究は、軽車両の登録数に関する最近の傾向を分析したSivak(2013)の追跡調査である。</p> <p>本レポートはまた、絶対移動距離に関する傾向を示しているけれども、主要な関心は、一人あたりの移動距離、運転免許保有者一人あたりの移動距離、一家あたりの移動距離、そして登録車両あたりの移動距離であった。これらの割合の全ては、景気の低迷が始まる4年前の2004年に最大値に達していて、2011年までに5%から9%減少した。これらの低下は、おそらく部分的に、車の必要性に影響を及ぼす社会における非経済的な変化を反映している(例。在宅勤務の増加、公共交通機関の利用増加、都市化の増加、およびドライバの年齢構成の変化)。運転率に関する低下の始まりが短期間では見られなかったため、移動距離の割合に関する2004年の最大値は、長期的な期間におけるピークであるという理にかなった見込みとした方がよい。例外は、登録された車両あたりの割合である。一人あたりの車両数、運転者あたりの車両数、一家あたりの車両数は低下し続けるべきで(Sivak, 2013)、登録車両あたりの移動距離は最終的に増加し始める可能性があり、従って、この割合は2004年の最大値を上回る将来における良い機会である。</p> <p>本研究と以前の研究(Sivak, 2013)から結合させた証拠は、一人あたり、運転者あたり、そして一家あたりに対して、現在の軽車両数は少なくなり、10年前よりその距離は低下していることを示している。見積もられた現在の軽車両の年間の移動距離率は次のようになった: 一人あたり 8,500 マイル, 運転免許保有者一人あたり 12,500 マイル, 一家あたり 22,100 マイル, 登録車両あたり 11,300 マイルである。</p>					
17. Key Words 車社会, 移動距離, 車両, 運転免許保有者, 家庭				18. Distribution Statement Unlimited	
19. Security Classification (of this report) None		20. Security Classification (of this page) None		21. No. of Pages 18	
22. Price					